

佳作

私の夢

青森県つがる市立森田中学校

3年 一戸 心乃

私の父は自衛官です。朝早くから仕事に行き、勤務状況によって、遅い時間に帰ってくる時もあります。毎日忙しいのに、国民のために一生懸命働く父をととても尊敬しています。

2011年、3月11日に日本観測史上最大規模の地震が観測されました。当時2歳の私は、とても大きな揺れを感じたとき、

「怖い！ 怖い！」

と泣きながら母にしがみつきました。母は私を温もりのある腕で抱いてくれました。私はその温もりを肌で感じて、少しずつ不安が和らいでいったのを覚えています。

まもなく、宮城県震度7の情報がニュースで流れ、そのニュースを見た自衛官の父は、

「大変だ！ すぐに行かないといけない！」

と、バタバタと持っていく物を大きなバッグに入れ、出動する準備をし始めました。すると、ものの数分で、

「しばらく帰ってこられないかもしれない。」

と足早に家を出て行きました。それから数週間、父は人命救助のために働き続けていたそうです。

私には当時の記憶はここまでしかありませんが、両親から当時の災害状況を教えてもらいました。その話を聞くと本当に大変な災害だったことが分かり、とても心が痛みました。今では、テレビで自衛隊が活動する姿を見るたびに、

「国民のために働く仕事って素晴らしいな。」

と思うようになりました。そして、

「私たち国民のために働いてくれている父に、改めて感謝しなければなあ。」

と思うようになりました。

ある日、吹奏楽部の私は、航空自衛隊北部航空音楽隊を講師に迎えた吹奏楽講習会に参加しました。私は緊張していたけれど、航空自衛隊員の立派な姿と人柄、態度に感動しました。また、皆さんが笑顔でとても楽しそうに見えました。私は、

「こんなふうに、吹奏楽ができるっていいなあ。」

と、その時は軽く思っていました。各パートごとに各教室へ移動し、バスクラ

リネット奏者の私もパート教室へ移動しました。すると、バスクラリネットパートの講師は女性自衛官だったのです。

「心乃ちゃんは、少しマウスピースを強く噛んでいるから、もう少し力を抜いてみて。」

「そうそう！ 良い感じ！」

などと、優しく親切に教えてくれました。その女性自衛官はとても素敵で、

「かっこいい！ 私もこういう自衛官になりたい！ 自衛隊音楽隊に入りたい！」

と、すぐに憧れを持ちました。そして、

「尊敬する父のように、私も自衛官になって、得意の音楽で国民のために働きたい！」

と、心から思いました。同時に、将来の夢を探し続けていた私は、

「夢が見つかった！ これだ!!」

と、気づき、心が震えました。

自衛隊音楽隊に入隊するのは、非常に難しいと聞きますが、私は挑戦して必ず夢をかなえてみせます。そして、近い将来、心に響く素晴らしい音楽を国民の皆さんに届けます。楽しみに待っていてください。

未来の私へ。

「元気に、健康に、過ごせていますか。自分で見つけた夢をかなえられていますか。ちょっとしたことで悩んでいませんか。人生まだまだこれからだから、いろいろ挑戦して行ってね。物事を後回しにしていますか。人間関係はうまくやっていますか。過去の私は、些細なことでストレスがたまって、すぐ落ちこんで体調を崩して悪循環になることが時々あったけれど、未来の私は、その経験が糧となってたくましく、楽しく過ごせているだろうから、今は未来に希望をもっているよ。油断せず、前を向いて進んで行ってね。そして、困った時は、父や母に相談すればいい。いつもポジティブな弟や妹もいる。味方はたくさんいるよ。どんな時も今やるべきことを果たし、成長していこう。私は未来の自分に会うために、今、こうして、たくさん努力をしているから、それを無駄にせず頑張ってほしい。でも、何よりも健康第一で頑張って！ 未来の私！ 才能を無駄にせず大切に使ってね。私は、私で生まれてこられたことを、とっても幸せに思っているよ。」